

もりです」云々。此記事は彼等に一種の望を抱かしたるが、夫人が會見を避くべしとの説尙強かりき。十八日代表者は加藤相談役及坑夫日井善吉と、もに宮村町の本部を出で、十時十分市外西ヶ原古河男爵本邸前に着し、本門に差かゝれるも開かざる爲め通用門に廻り、村兩事務員に來意を通じ、尾本執事に依て夫人に會見を申込めるも、夫人は病氣中とて會見を避けたれば本邸に電話し男爵に會見を申込めるに、「只今食事中なるが宛に角本社に來らるべし」との挨拶を受け、午後二時本社に到れば男爵は不在なりき。止むを得ず氏家氏に會見し、氏家氏は「不景氣のため一般に打撃を受け、多數の社員を減首し鑛山部や商事會社なども三つのものを一に緊縮して居るような次第で、解雇したのは坑夫ばかりでないから」とて宥むるや、女房達は「貴下方は私共と立場が違ひます」とて其事情を語り「尙自分達は山に居る多くの人の代表者として來たのであるから是非社長さんにお目にかかつて情けのあるお言葉を戴きたく社長さんのお歸りを待つ」とて動かす。氏家氏は「足尾のことはすべて杉本鑛業所長が預かつて、古河の意見通りやつて居るから社長に會つても同じことである」と云ふや女房連は杉本所長の不誠意を鳴らし却々鎮らす。茲に於て昆田理事長女房連に會見し、社長に代つて逐一事情を聴取したりしが、同夜解決の電報來りしたため、女房連は満足し十九日足尾に引上げたり。

▽婦人代表に寄附 足尾より上京せる婦人代表者の寄附者左の如し。

金拾圓、石鹼五箱

府下瀧之川西ヶ原

正木堂藥店

金拾圓
金百圓
金五圓
金壹圓五拾錢

總町區元園町 赤瀬會
日本大學 柴民創生會
名古屋市城代町 伊藤名
名古屋市愛知病院 無名
廣島商業學校 S Y 生

▽事件解決の顛末

解決の交渉は十八日午前十時十分より足尾署樓上に開始せられたり。組合側は此日警察署裏岩上さく方に臨時本部を移し、高梨、石山、可兒、關屋等を初の幹部詰め切り結果を待てり。會見者は會社側の佐々木敏行氏、組合側麻生、石塚兩氏、立會者萱場保安課長、佐藤高等課長、篠崎足尾署長なり。劈頭佐々木氏より麻生氏に對し、八ヶ條の要求を撤回せられよ而して其意を含める余の提案に聞かれよとの提言あり。結局八ヶ條要求を希望と改め、熱議の結果、左の如き取定めをなせり。

- (一)團結の承認に關しては會社は全日本坑夫聯合會並に日本坑夫組合の存立を認め會社は業務に支障を來さざる範圍内に於て團體の發達維持を妨げざるのみならず是が發達に對し好意を表する事。
- (二)賃銀問題に就いては今後會社は賃銀を現在の賃銀より引上ぐる事はあらんも現在に於ては低下せざる事。
- (三)坑口八時間制實施は實施困難なる事。
- (四)勤続手當を從來の七ヶ年以上とあるを五ヶ年以上より支給され度き事は會社も此の要求の容れらるゝに對し今後大いに努力する事。